

THE 新版画

版元・渡邊庄三郎の挑戦

THE SHIN-HANGA : The Great Endeavor of WATANABE Shōzaburō

い複雑かつ華麗な彩色に「ざら摺り」など手摺りならではの技法を駆使するなど、庄三郎の創意工夫と優れた審美眼に支えられた新たな「浮世絵木版画」、すなわち「新版画」を世に送り、昭和の初めに国内外で巻き起こる「新版画ブーム」の火付け役となりました。

本展覧会では、新版画のルーツであり、新版画制作の精神を今もなお受け継ぐ渡邊木版美術画舗の全面的なご協力のもと、残存数が少ない貴重な初摺の渡邊版をとおして、渡邊庄三郎の挑戦の軌跡をたどりながら、モダンな精神に彩られた瑞々しい表現の魅力をご紹介します。

渡邊庄三郎（1885-1962）は17歳で浮世絵商・小林文七の輸出の店（横浜店）につとめ、そこで携わった浮世絵、とりわけバレンで摺る木版画特有の美しさに魅了されると、明治以降、西洋の写真や印刷技術導入の影響により衰退の一途をたどっていた浮世絵木版画（錦絵）の復興と新しい木版画制作を志します。その後独立し、明治42年（1909）には東京・京橋に渡邊版画店（現在の渡邊木版美術画舗）を構え、浮世絵の研究や販売を行うかたわら、大正4年（1915）から、来日していた外国人画家の作品の版画化を試み、鎗木清方門下生を中心とした新進気鋭の画家たちとともに、高い芸術性を意識した新しい木版画の制作に取り組みます。江戸時代に確立された絵師、彫師、摺師の協業体制を踏襲し、高品質な材料を用い、それまでにな



川瀬巴水《箱根宮の下 富士屋ホテル 冬》昭和24年（1949）



名取春仙《創作版画 春仙似顔集 二代目市川左團次の鳴神》大正15年（1926）



平野白峰《対鏡（鏡の前）》昭和7年（1932）



小早川清《近代時世粧ノ内 - ほろ酔ひ》昭和5年（1930）



川瀬巴水《弘前城の春》昭和13年（1938）
【川瀬巴水未公開作！】



川瀬巴水《東京十二題 こま形河岸》大正8年（1919）

関連イベント

■新版画の摺りの実演

渡邊木版美術画舗ご協力のもと行う本職の摺師による新版画制作における摺りの実演会。
2023年10月15日(日) 11:00~12:30 当館ホール/見学無料(要観覧券/申込不要)

■ギャラリートーク

渡邊木版美術画舗の三代目店主・渡邊章一郎氏を招き、木版画制作の現場ならではのエピソードをお話いただけます。作品を前にして、新版画ブームを牽引した伊東深水・川瀬巴水・笠松紫浪らの逸話を聴ける貴重な機会です。
2023年10月15日(日) 14:00~15:00 当館展示室/聴講無料(要観覧券/申込不要)



公式WEBサイト

弘前市立博物館 🔍 検索



公式Instagram

hirosaki_city_museum



【交通案内】

●電車・バス

東北新幹線新青森駅より電車で40分、JR奥羽本線弘前駅下車
駅より土手町循環100円バスで「市役所前」下車、徒歩5分
または弘南バスで「市役所前公園入口」下車、徒歩5分

●車

東北自動車道 大鰐弘前により30分
※博物館専用駐車場はありません。近隣駐車場をご利用ください。